# 大島みらい新聞 No.26

2015年5月25日発行


## ごあいさつ～気仙沼市助成金による活動の報告～

長峯　純一（気仙沼大島みらいチーム代表）

気仙沼大島みらいチームでは、2013年度に引き続き2014年度も、大島地区自治会連絡協議会と「復興まちづくり協議に係る事務」を担うという形の委託契約を結ばせていただき、同協議会が気仙沼市地域づくり振興課から受けた復興まちづくり協議会運営費補助金396,000円を使わせていただきました。

同補助金は、2014年度に11回発行した大島みらい新聞（毎回3万円程かかります）の印刷費に主に充てさせていただき、それで残った金額は大島のみらいを考える会の運営費に使わせていただきました。同協議会からの助成金は2014年度で終了しましたが、別の民間団体の助成金を幸い獲得することができましたので、大島みらい新聞を継続させていきたいと思っております。紙面の改善も図っていきたいと思いますので、ご感想などお寄せください。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いします。

## 台湾大地震の復興から学ぶ
# 桃米生態村（タウミーエコビレッジ）視察報告

5月10日（日）に開催した大島のみらいを考える会では、大島みらいチームのメンバーでこの3月に視察した台湾の桃米（タウミー）村の報告をいたしました。

台湾では、1999年9月に大地震があり、震源地に近かった桃米も大きな被害を受けました。震災前、桃米の住民たちはそこが自然の宝庫であるという認識を持っていませんでしたが、震災後に外部から訪れた人たちに、豊かな自然とカエル・トンボ・蝶などの生物生態系が残っていることを指摘され、自然を生かしその体験ができる観光復興を目指すことにしました。

私たちが滞在した民宿にも多くの家族連れが訪れており、私たちも「カエルのエコツアー」に参加させてもらいました。まず住民のボランティアガイドからカエルの説明を受け、その後、長靴を履き、懐中電灯を持って、夜の闇へと繰り出しました。子供たちはまるで冒険の世界に踏み出したかのようなはしゃぎ様でした。驚いたのは、先ほどスライドで見たカエルたちが、次から次へと目の前に出てきたことです。

翌日は、阪神淡路大震災の時に作られ、その後この地に移設された「ペーパードーム」を訪問しました。ペーパードームは大きな公園の中にあり、その公園には観光バスも乗り付け、イベント、散策、食事、買い物がそろっている、ちょうど家族が日帰りで過ごせる場所でした。

現在、日本には、中国や韓国からの観光客が増えています。彼らはまず東京や京都へ行きますが、二回目以降は北海道が人気です。なぜかというと自然が沢山あるからです。中国にも自然はありますが、観光地として整備された「快適に旅行できる自然」ではありません。日本では、自然の中に旅館やお風呂があって、おいしい食事が食べられる。そういう意味では、大島には海の幸や美しい景色などの資源がありますし、架橋でアクセスもよくなりますので、大いに可能性のある場所だと感じました。

（関西学院大学　修士1年　北岡 佑太）

## 桃米（タウミー）基本情報

桃米生態村は、台湾のちょうど中央部に位置しており、台中市から車で1時間ほど、有名な観光地の日月潭に程近いところにあります。村の面積がおよそ大島2つ分ぐらいの農村です。私たちが民宿の周りで散策したのは、大島で言うと浦の浜から休暇村ぐらいの範囲です。近くには埔里（プーリー）市というこの地域の中心があり、その街は気仙沼市よりもやや大きい位の規模です。

1999年に発生した地震では、村の半数近くの住居が全壊し、大きな被害を受けました。震災前の主たる産物はタケノコという非常に貧しい農村で、若者は都会へと流出、過疎化と高齢化が同時に進んでいました。しかし、経済発展から取り残されていたことで、逆にこの地には豊かな自然や生態系が残っていたと言えます。

## 台湾の小さな農村を襲った大震災。
## その農村を生まれ変わらせたのは、この地域に埋もれていた自然でした。

▲桃米生態村でのカエルツアーの様子

▲桃米生態村の自然

▲泊まった民宿と食事の様子

▲竹のプランターとペーパードーム

## 島民の皆さんからの質問

**－桃米村は震災前どのような場所だったのでしょうか？－**

震災前は「ビンロウ」という木の実を栽培している土地ということでした。若者の多くは村を出て行ってしまう、貧しい村だったそうです。

**－日本から桃米生態村まではどのようにして行くのですか？－**

日本から台北市まで飛行機、そこから台中市まで新幹線で移動し、台中駅から桃米生態村まで車で1時間くらいです。台湾の人たちはほとんどがマイカーで来ていました。台中駅から村の近くまで路線バスで行き、そこから民宿の方に送迎してもらうこともできます。

**－桃米を見て大島の参考になると思ったことは何ですか？**

人口・面積の規模や自然が豊富であることなど、大島の立地や環境とよく似ていると感じました。日本から桃米まで移動してみて、仮に大島に東アジアなどから観光客を呼び込むことを考えると、仙台までは移動できますが、そこから大島までが難しいだろうなと思いました。逆に言えば、仙台から大島までの移動ルートを作れれば、海外から観光客を呼び込むことも可能ではと思います。

**－現在、村民の中に若い人はいますか、またどんな仕事をしていますか？－**

あくまで印象で、沢山という程ではないですが、ペーパードームのスタッフやそこで働いているのは若い人たちでした。村の外から1～2年働きに来ているという若い人もいました。

# 大島をアピールしてきました！！

5 月 17 日（日）、サンバ踊りのパレードで有名な神戸まつりに、大島みらいチームの学生メンバーで参加してきました。気仙沼支援をしている神戸市岡本商店街＋気仙沼ショップ「まただいん」のチームが震災復興関係の団体としてパレードに参加するというので、大島みらいチームからも応援参加をすることになりました。

当日、沿道は大勢の観客で、私たちのパレードはぶっつけ本番でしたが、それでもカメラを向けてくれる人がいたり、大島復興Ｔシャツを見た別の東北の団体から声をかけられたりと、貴重な経験と交流をさせていただきました。

阪神淡路大震災から復興を遂げた神戸の街や人々の力強さと東北被災地とのつながりを感じた一日でした。　（神奈川大学　修士２年　古永家 由記）

小野寺紗季さん（おのでら・さき）　白幡奈々さん（しらはた・なな）
小野寺裕香さん（おのでら・ゆうか）

## 少しの行動の積み重ねで「少し。」を「いっぱい。」に

-「つんと。」の名前の由来は何でしょうか？

「つんと。」というのは大島の方言で「少し」という意味で、少しずつの行動を積み重ねて行けば大きなことをいつか成し遂げられるのでは、少しずつ活動していこう、という意味を込めてこの名前にしました。

-「つんと。」は、どのような活動をしているのですか？

昨年、私たちは高校３年生で受験生だったので、「朝活」という活動をメインにやっていました。それは、朝焼けの写真や自分たちのお気に入りのスポットの写真を撮影するというもので、マップにまとめて大島のアイランド・フェスティバルで発表させていただきました。それが１番の大きな活動でした。あとはゴミ拾いなどをして、観光客の皆さんに来ていただいたときにはきれいな大島でいられるようにと、そういうちっちゃい活動をしてきました。

-「つんと。」の活動が始まったきっかけは何ですか？

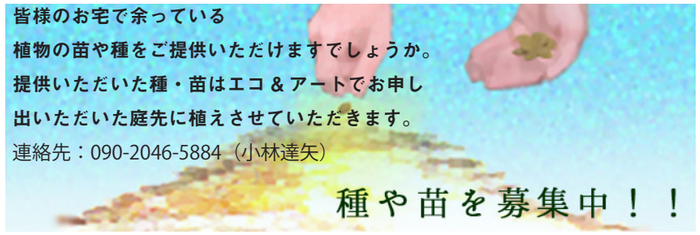
昨年の３月 11 日に気仙沼の港で三本の光のプロジェクトがあって、LIGHT UP NIPPON を大島の同級生たちと見て来ました。その時に、みんな口には出していなかったのですが、実は震災後からずっと大島へ何か貢献できることはないかなって、それぞれが思っていたことが分かりました。それで皆でチームを組んで何かできないかということになり、とりあえずその時は何かをしようということで結成して、今まで活動してきました。

-架橋について何か思うことはありますか？

架橋自体はとてもよいことだと思います。命の危ない人は１分１秒を争うので、そういった面で架橋は役に立つと思うんですが、今まで動いていた汽船が衰退していくのが心配です。私は汽船にも動いていて欲しいので、これからの汽船のことが気になるのと、いろんな人が来ることで大島の環境がどうなるのか、学校がどんどん無くなり人口の流出にも変化があるのか、といった面も心配です。

- 少しの積み重ねが大きな成果をもたらす。とてもすてきな活動ですね。「つんと。」の皆さん、貴重なお話をありがとうございました。

取材：小林、古永家、北岡、城間




大島みらい新聞 No.26 2015 年 5 月 25 日発行
企画・制作・発行　気仙沼大島みらいチーム
編集長　長峯純一（関西学院大学）
協　力　大島地区自治会連絡協議会
気仙沼みらい計画大島チーム
写真・デザイン　小林達矢、楠目晃大、有田一乃、小松昌平
樋口徹也、古永家由記、神田貴之、城間リカルド、石井佑果、千々松海図、北岡佑太
お問い合わせ　小林　達矢
Mail:5884.tat@gmail.com

龍神様の背中に植えられたナデシコ

大島の竹を使って、龍神様を模ったプランターを製作しました。背中には提供して頂いた、ナデシコ、サラダ菜などの種が植えてあります。また、小田の浜からも見える場所にヒマワリも植えました。大島の風景の一部になればよいなと願っています。

昨年の夏に製作した竹の休憩所に加えて、この夏は龍神様の背中とヒマワリの成長を是非ご覧ください！まだまだエコ＆アートプロジェクトは続きます！

竹を切り出す学生

ひまわりの苗も植えました

**講師：客野尚志 氏**（関西学院大学教授）「専門は環境解析や都市デザイン。震災後、GIS（地理情報システム）を使って大島の浸水マップを作成。」

**内容紹介：**「サーモグラフィーや風速計を使って、大島の快適な散策コースを探ります。」

**日時｜2015年6月14日　13:30～15:30**

**会場｜大島開発総合センター2階**

**共催｜気仙沼大島みらいチーム**
**大島地区自治会連絡協議会**

**参加無料　予約不要**

誰でもお気軽にご参加ください